勝瑞探訪絵巻

道程 約一里
刻限 約一刻

六 若宮神社跡地

若宮神社のあった場所で、昭和35年に南陽神社に合祀された。

祭神は『三好長治宝女』とされている。

土佐勢侵攻時に勝瑞を逃れた姫が、この付近で関を設けていた長宗我部軍に捕らえられ亡くなったとの伝承が残る。

五 伝 見性寺跡

見性寺は岩倉(美馬市)にあった宝珠寺を三好元長が祖父之長の菩提を弔うために勝瑞城下に再建し、寺名を改めたとされる。

天正年間(1573~)の争乱で兵庫したものの、延宝年間(1673~80年)に再建され、その後、勝瑞城跡に移転するまで見性寺があったとされる場所で、古屋敷といわれている。

勝瑞騒動で、細川持隆が自害した地は見性寺といわれている。

四 寺町

この周辺は通称寺町と呼ばれている。

『阿州三好記大永前書』(『阿波国徴古雑抄』所収)には勝瑞に二十七の寺院名が記されている。

『持明院・春日寺・正善寺・妙蓮寺・臨川院・圓徳寺・泉光寺・安楽寺・見性寺・観音寺・泉宗院・源圓寺・明正寺・浄智院・蓮花寺・般若院・妙典寺・林光寺・能正寺・普妙寺・長基寺・光明院・西光寺・長花寺・小川寺・小路寺』

参 伝 持明院跡

俗に如妙塔と呼ばれ、『阿州三好記大永前書』(『阿波国徴古雑抄』所収)に見える「持明院」跡と考えられる。

現在、勝瑞城跡に立つ勝瑞義軍碑も以前はここにあった。ここに残る五輪塔・宝篋印塔は鎌倉時代末~室町時代の初期の様相を示している。

弐 渡り

小字名で『渡り』の地名が残る地。勝瑞城跡のすぐ北側に位置し興味深い。

現在が湾曲して入り込んでおり、簡易な漁港施設等の存在が想定される。現在通っている町道建設時に実施された試掘調査では、社側に向かって落ち込む砂層が確認されている。

また、この周辺に円徳寺があったとされる。

壱 勝瑞城跡(国指定史跡)

発掘成果からは、三好氏の統治末期に築造されたものと考えられる。現在は城跡公園の北側の橋から西側に土塁約13mの遺が復元されている。

竜音山見性寺

享保八年(1723)に三好氏の菩提寺である竜音寺と併せ現在の場所に移ってきた。三好三代の墓とされる4基の五輪塔(町指定有形文化財)がある。また三好長基、長禅像(県指定有形文化財)も残る。

七 景徳山地福寺

文治年間(1185~90)創建とされる真言宗のお寺で、ぼっくり寺の名で親しまれている。

境内には細川澄元の墓と伝えられる永正十八年(1521)の紀年銘入りの五輪塔がある。

細川澄元は細川の庶流の中でも有力な典厩家で詳細は不明だが両細川の乱において三好元長と同じ細川澄元方であったため、対立勢力である細川高国に追われ阿波へ入国したものの、ただ1526年に三好勝元らと堺に上陸したとの記録も残る。

八 馬木の道標

大麻比古神社の参拝道である大麻街道に建てられた道標で右を指差す手と『大麻宮富山寺』、側面には『文政十三年(1830)庚虎五月建立』と書かれている。

古くは大麻街道のルートを讃岐街道が通っていたとする説もあり、このルート付近に細川守護所想定地と細川家の菩提寺である光勝院が見られることからも古くから発達した街道と考えられる。

九 撫養石の石積み

洪水に対するための石積みに撫養石(和泉砂岩)を加工して積んでいる。撫養石の加工しやすく、墓石や石臼などにも利用されている。

この付近の石積に「大正三」の銘が入ったものがあったと記憶している方がいるので、もし探し出せれば大発見!!知っている方は是非ご一報をお願いします。

拾 細川氏守護館想定地

現在、細川氏の守護館想定地と考えられている場所。

明治期の地籍図等から、一町四方(一辺約120m)の方形区画や、周辺にその1/2、1/4程度の方形区画、それらを結ぶ直線道路がみられ、これは全国的にも見られる15世紀末~16世紀前半の守護所の町割りの典型的なありかた。

平成17年度に実施した地中探査レーダーによる調査では深くしっかり落ち込みが確認されている。

拾壱 『海恵寺』瓦出土地

発掘調査で、基壇状遺構や礎石、瓦などが出土し寺院跡と想定される。

屋敷地を区画する溝の中からは、呪符木簡や瓦頭に『海恵寺』の銘がはいった瓦が出土した。

拾弐 南陽神社(日枝神社)

細川澄元が阿波入国(1508年)とともに祀ったとされ、日枝神社と呼ばれた。後にいくつかの神社と合祀され、この近辺が南陽ヶ丘と呼ばれていたため昭和37年に南陽神社と改名した。

一説によると南陽には土御門上皇の行在所、南陽離宮があったとされ、後に細川頼春が富陽城を造るにあたり、南陽離宮を移し、離宮跡へ山王社を祀って、城の鎮守としたとされる。富陽は勝瑞と改められたともいわれる。

拾参 阿関山(法輪山)延寿院観音寺

僧人(仙人)さんと呼ばれる石像が祀られている。江戸時代初期に讃岐より移転した観音寺の土盛のため裏の池を掘った際に出土したと伝承がある。三好氏の守護神であったものだとも、吉利支丹に関わるものでオリシタン禁制の際、土中に隠されたなどの伝承も残る。

拾四 西町

通称西町と呼ばれている。伝承によると、このあたりには寺社が立ち並んでいたといわれる。『蜷住町史』には、「地下に石が多い。勝瑞の全盛時代には人馬が多く往来したところが。」と書かれている。かつて、道路工事の際に永福寺や陶磁器類などの建物が出土したといわれる。

拾五 正善寺跡

小字名は正善地。古い地図には正善地とある。周辺には五輪塔が散見でき、「寺門」の屋号を持つ家もある。正善寺跡として以前から言い伝えられていたが、発掘調査の結果、大量の瓦、五輪塔が出土し、礎石建物跡も検出され、伝承が裏付けられた。正善寺は『阿州三好記大永前書』(『阿波国徴古雑抄』所収)にも記されており、七変伽藍をもつ寺院で三好氏の祈願寺であったとされる。この地点は、周辺の地形などから推定すると、勝瑞の町の南東隅に当たると思われる。

拾六 阿弥陀橋

通称「阿弥陀橋」といわれる。

橋の側には中世の板碑がある。板碑とは、鎌倉時代中期から造立が流行した供養塔で石製の卒塔婆。この板碑は、室町時代のもので、緑色片岩の板石の頂部を山形に造り、上部に二本の横線、その下に阿弥陀如来を表す梵字キリーク、「南無阿弥陀仏」の文字が刻まれている。

拾四 妙蓮寺橋

この付近の田畑の地下には石垣が確認され、多くの土器が出土している。

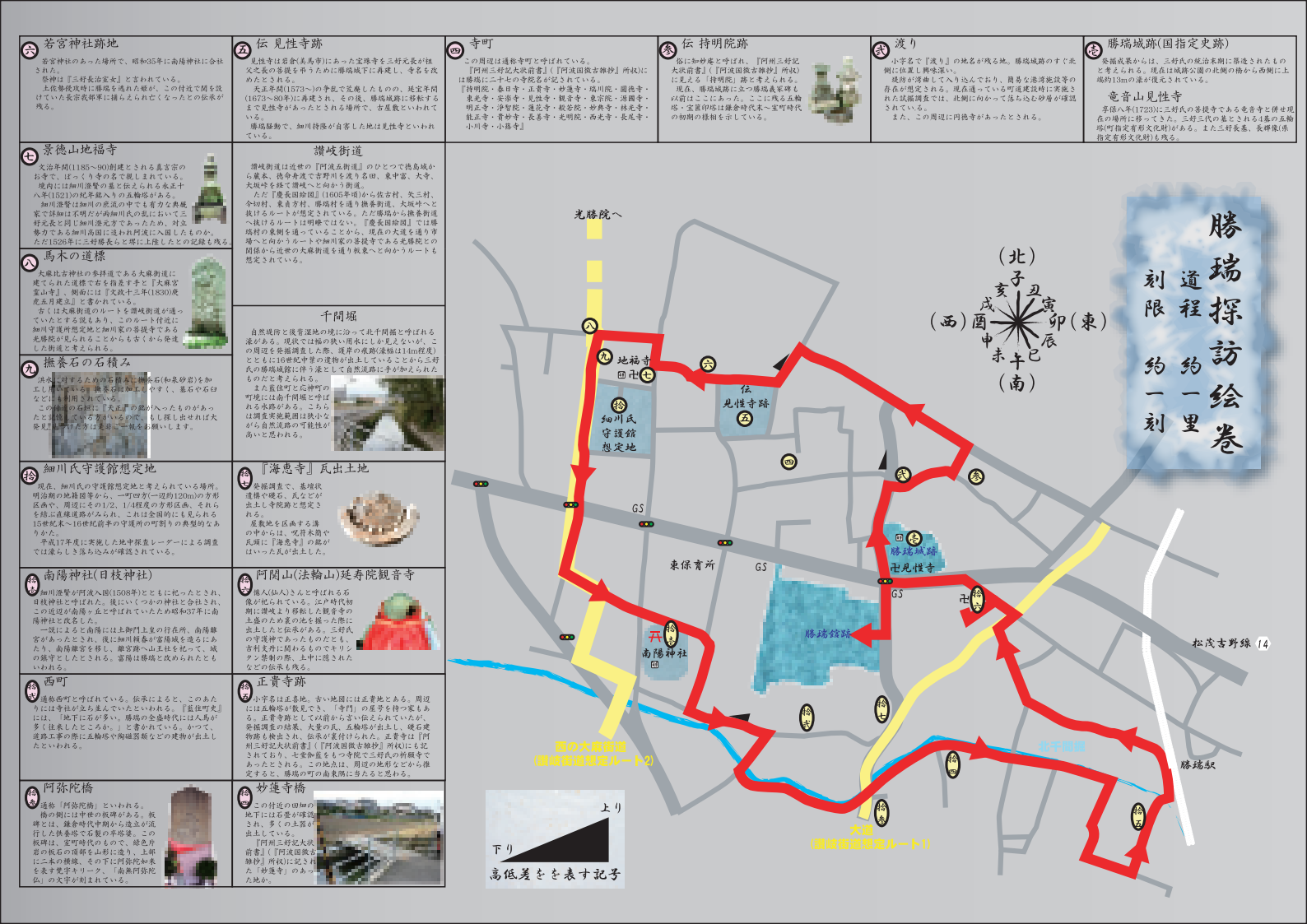
『阿州三好記大永前書』(『阿波国徴古雑抄』所収)に記された「妙蓮寺」のあったとも。

讃岐街道

讃岐街道は近世の『阿波五街道』のひとつで徳島城から撫養、徳命峠渡で吉野川を渡り名田、東中富、大寺、大坂峠を経て讃岐へと向かう街道。

ただ『慶長国絵図』(1605年頃)から佐古村、矢三村、今切村、東喜方村、勝瑞村を通る撫養街道、大坂峠へと抜けるルートが想定されている。ただ勝瑞から撫養街道へ抜けるルートは明瞭ではない。『慶長国絵図』では勝瑞村の東側を通っていることから、現在の大道を通り市場へと向かうルートや細川家の菩提寺である光勝院との関係から近世の大麻街道を通り板東へと向かうルートも想定されている。

千間堀

自然堤防と後背湿地の境に沿って北千間堀と呼ばれる濠がある。現状では幅の狭い用水にしか見えないが、この周辺を発掘調査した際、護岸の痕跡(濠幅は14m程度)ととともに16世紀中葉の遺物が出土していることから三好氏の勝瑞城館に伴う濠として自然流路に手が加えられたものだと考えられる。

また盆住町と応神町の町境には南千間堀と呼ばれる水路がある。こちらは調査実施範囲は狭いながら自然流路の可能性が高いと思われる。